わがまち紹介

魅力あふれる大地と笑顔あふれる人々がともに創生するまちを目指して

共和町

共和町基礎データ

総人口	5,380人（令和６年２月末）	製造品出荷額	5,117百万円（令和３年経済センサス）
老齢人口	1,853人　34.19%（令和６年２月末）	卸・小売年間販売額	10,347百万円（令和３年経済センサス）
世帯数	2,720世帯（令和６年２月末）	一般会計規模	8,394,967千円（令和６年度当初）
人口密度	17.6人／km²	町の花	ミツガシワ
面積	304.92平方キロメートル	町の木	イチイ（オンコ）
農業産出額	5,980百万円（令和４年市町村別農業産出額）	町のサブタイトル	「かかしのふるさと」

共和町の概要

共和町は、後志管内の北西、積丹半島の付け根に位置し、東西端の距離は約20km、南北端の距離は約23kmあり、町の東部は倶知安町、北部は仁木町及び古平町、西部は岩内町及び泊村、南部は蘭越町に接しています。

三方を山に囲まれ西方が日本海に面している地形のため、夏は温暖でやや雨量が多く、冬は強い季節風により積雪は平野部で１m程ですが、東部は地形的に盆地化しているので幾分多くなります。しかし、４月以降の気温の上昇は早く、稲作・畑作条件に恵まれています。

まちの歴史は安政４年に徳川幕府直轄の開墾場として、幌似地区と発足地区に「御手作場（おてさくば）」を設けたのがはじまりです。昭和30年に３つの村（小沢村、前田村、発足村）が合併し共和村が誕生すると、総人口も14,403人とピークを迎え、昭和46年には町制施行され、現在の共和町となりました。

平成８年には、合併40周年と町制施行25周年を記念した、かかしをモチーフとしたキャラクター「共くん＆和ちゃん」が誕生し、共和町PRなど様々な活動をしています。令和２年には３代目となるデザインに生まれ変わりました。

共和町の産業

共和町の基幹産業は農業です。

温暖な気候と肥よくな大地に恵まれた共和町は、古くから道央の米どころとして栄えており、町の中央を東西に流れ、日本海に注ぐ堀株川の丘陵台地に農耕地が広がり、道外でも人気の高い「ななつぼし」、「ゆめぴりか」などが生産されています。ふるさと納税の返礼品としても非常に評判が良く、数ある返礼品の中でもメロンとチーズに次いで人気の高いものとなっています。

また、らいでんスイカやメロンに代表される「らいでんブランド」は昭和30年代後半から40年代にかけて、当時の共和村発足地区の生産者たちがスイカやメロンの生産を始め、ブランドの統一化を図ったことからその歴史は始まりました。“味で勝負”と掲げるらいで

んブランドは、高い品質基準を保つため、スイカとメロンの集出荷選果施設において、糖度や品質などを確認できる光センサーを導入しています。こういった最先端の技術導入による徹底した品質管理により市場や消費者からの信頼は厚く、令和５年の初セリでは、スイカ、メロンともに高値を記録しています。また、令和２年には、スイカの作付面積と収穫量が道内２位、メロンの作付面積が道内２位、収穫量は道内１位を記録しています。肥よくな土壌、温暖で雪解けが早く、昼夜の寒暖差が大きい気候、清らかな雪解け水、といった共和町の環境と、ブランドを支え育て上げる生産者の熱意によって高品質ならいでんの農産物は生まれています。

共和町の観光

「かかしのふるさと」共和町を象徴する、毎年８月中旬に開催される共和かかし祭は、夏を代表する一大イベントであり、祭り会場には、訪れる人々が思わず笑みをこぼすような個性的でユニークなかかしが数多く並ぶほか、かかしコンクールを軸に、歌謡ステージ、ばん馬競技大会など、ユニークな催しが開催されています。共和かかし祭の歴史は長く、昭和56年に開催された産業まつりが昭和60年に現在の名称へリニューアルされ、コロナ禍による中止を経て、令和５年に第40回の開催を迎えました。初開催から脈々と続けられているかかしコンクールは、町内外から100体を超える手作りのかかしが集まるなど、約21,000人の来場者を迎え、共和かかし祭は共和町の夏の風物詩となっています。

また、ニセコ町から共和町を通り岩内町へと続く道道66号は、「ニセコパノラマライン」と呼ばれ、夏は青々とした緑と青い空のコントラストを、秋は色づく木々の紅葉を楽しむことができ、絶景を堪能しながら走れるドライブやツーリングに最適なルートとなっています。そして、チセヌプリの北側にたたずむ神仙沼は、ニセコ山系に点在する池沼のなかで最も大きくかつ美しい沼と言われており、四季折々で姿を変える景観と神秘的な表情、さらにはこの場所でしか見ることができない高山植物が数多く生息しているため、多

くの観光客が訪れる共和町の観光名所となっています。

そのほか、令和９年度の開業を目指す道の駅では、地域の特産品を販売する直売所や地元食材を活用した料理を提供するレストラン、子ども達が屋内で遊ぶことができる遊具施設などの併設を計画しており、町内外から多くの人が訪れる交流の拠点となり、町内の賑わいを創出するとともに地域産業の活性化となる施設を目指しています。

今後のまちづくり

共和町では、「まち・ひと・しごと創生法」及び「デジタル田園都市国家総合戦略」また、北海道の「第２期北海道創生総合戦略」に基づき、本町における人口減少を和らげ、将来にわたり活力ある地域社会の実現を目指すため、これまでの地方創生に関する取組にデジタルの力を活用して施策を加速させ、総合的かつ計画的に実施するため、令和６年度から令和10年度の５年間を計画期間とした「共和町デジタル田園都市国家構想総合戦略（第３期総合戦略）」を策定しました。基本目標の１つである「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の施策では、道内においてはかなり高い出生率を誇っている本町ではありますが、特に出産・子育ての環境充実に向けては、町独自の施策を多岐にわたり展開することで道内一の出生率を目指しています。このほか、町内に現存する小中学校については、まちの将来を見据え、時代の変化に適応した学校再編を進めるとともに、児童生徒のより良い教育環境と学びの充実を図るため、小中一体型の義務教育学校の開校を令和10年度を目途とし、公立学校としては全国初の「きょうわ式ハウス校（１年生～９年生までで構成する異年齢集団）」を目指し、異学年が交流することによる全人教育を目指しています。また、教育環境の充実を足がかりに、移住・定住政策の促進を図ります。町の東部、ワイス地区ではインターナショナルスクールの整備が計画されており、その運営に携わる会社とは、国際教育キャンパス構想基本合意書を締結しており、本町の義務教育の強化やバイリンガル教育について、取り組むこととし、本町義務教育の推進・振興にも期待を寄せています。

共和町の四季

【春】堀株川の桜

【夏】かかし祭

【秋】秋の圃場

【冬】冬の堀株川と羊蹄山